

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学 国語教育専修 無量井 夏音
(大阪市立西島小学校を想定)

1. 単元名 世界平和のための6-1 サミット

2. 単元の目標

- ・戦争に関わる歴史を知り、平和の価値について多角的に理解することができる。 [知識及び技能]
- ・戦争について調べたことや、修学旅行を通して学習したことを基に平和について考え、相手に分かりやすく伝えるように工夫して表現することができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- ・進んで話し合いに参加し、身近な平和のために自分にできることを考える。 [主体的に取り組む態度]

3. 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、12月に修学旅行で広島へ行き、本川小学校や原爆ドームにて平和学習を実施した。社会科の学習では、「長く続いた戦争と人々の暮らし」(東京書籍)の単元で、歴史的側面から第二次世界大戦に関する学習を行った。社会科での学習は、修学旅行での平和学習の基盤となった。このような学習を通して、児童は戦争がいかに恐ろしいものかを理解することができた。

しかし、修学旅行や社会科で学習した戦争は昔の出来事であることから、平和学習を自分ごととして捉えている児童は少ない。その原因として、現在の戦争や紛争についての知識が少ないことが考えられる。本学級は多国籍の児童で構成されており、ウクライナからの避難民も存在する。よって、注意を払いながら今もなお戦争や紛争が行われていることについて触れ、戦争のない平和な世界の実現について考える必要がある。

一方で、戦争が自分たちの生活に馴染みのないということも、平和学習を自分ごととして捉えにくい原因であると考えられる。そこで、戦争が起こる理由から自分たちの生活に目を向け、身近な平和の実現について考えを深めたい。このように、戦争や平和について再考することを通して、身近な平和の大切さに気づくことが必要であると考えられる。

(2) 教材観

本単元は、戦争や平和について考え、その背景から身近な平和の大切さに気づくことを目的としている。はじめに提示する「もし「桃太郎」(ももたろう)のしゅじんこうが「オニ」だったら」という動画は、「オニ」視点で描かれた童話「桃太郎」の物語である。童話で主人公、桃太郎の敵だった「オニ」は、この動画の中では平穏に生活していただけた家族であった。そこに、桃太郎が突然襲撃する。この動画を通して、戦争や紛争の背後にある様々な立場や理由を考慮するという視点を養う。

つぎに、「戦争をなくすためにはどうすればよいか。」ということをも主題としたサミットを行う。ここでは、児童自身が前述した視点をもって戦争の背景や原因を考えるとともに、グループで合意形成を行った後、他グループと伝え合う活動をする。そうすることで、他者の意見を聞いたり、自分の意

見に取り入れたりするということを体験する。

最後に、身近な平和について考える。「戦争がないということだけが平和ということか。」という問いのもと、平和のためには日常的な思いやりが必要であることを学ぶ。以上の過程で、戦争と平和についての知識を深めるだけでなく、身近な平和の大切さを実感することができると考え、本単元を設定した。

(3) 指導観

第一次では、戦争についての視野を拡大させるために、「もし「桃太郎」(ももたろう)のしゅじんこうが「オニ」だったら」という動画を導入として扱う。これまでの「桃太郎」のイメージと本教材の感想を比較させ、意見交流を行う。この意見交流から、児童は「オニ」が必ずしも悪者ではないという視点を通して、対話と理解が重要であることを児童に気づかせたい。そして、現在起きている戦争や紛争の写真を提示し、平和ではない現在の世界について目を向けさせる。このようにして、導入教材で学んだものの見方を戦争の背景に落とし込む。戦争に関する問題も、相手の理解が平和の実現には必要であるということを考えられるようにする。

第二次では、「戦争をなくすためにはどうすればよいか。」ということを考えさせる。問い自体が難しいため、考える時間を長くとり、まずは戦争が起こる理由を考えさせる。そして、この問いについてグループで合意形成をさせ、具体的な方法とその理由をグループ全員が説明できるように、調べ学習やその共有を行う。その上で、他グループと意見交換(=サミット)を行う。全員が他グループとのメンバーになるように再度グループを組んで、元のグループで話し合った方法とその理由を伝える。他グループとの共有の後にはワークシートで自分がよく伝えられたか、相手の意見がよくわかったかを振り返るワークシートを記入する。合意形成とその共有の過程で、他者の意見を尊重しながら自分の考えを整理し、伝える力を養いたい。

第三次では、「戦争がないということだけが平和ということか。」という問いから、身近な平和を実現するために自分にできることを考え、その具体的な行動を描かせる。平和は遠い理想ではなく、身近なところから実現できるものであることを理解させる上で、個人の小さな行動が平和に繋がることを実感させることが重要である。そのため、児童が考えた身近な平和のための行動を付箋に書かせ、教室に掲示したい。

この単元を通して戦争をなくすためには他者との対話や協力が重要であり、平和な世界を実現するためには自分たち一人一人が責任をもって行動することが必要であると、自分ごととして考えさせることができる。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性…画一的な見方をせず、対話を図ること。

連携性…平和な世界の実現には人と人との協力が必要であるということ。

責任性…二度と戦争が起きないように、世界平和を実現していく責任があるということ。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力

戦争の恐ろしさに気づき、戦争をなくすにはどうすればよいか、平和な世界の実現とはどういうことかを考えるということ。

多面的、総合的に考える力

物事を画一的に考えるのではなく、様々な要素を基に他者の視点に立って考えることで、互いに理解し合うということ。

他者と協力する態度

グループで合意形成を図り、ほかのグループへの伝え方を考えること。そして、他グループの意見を尊重しながら理解しようとする事。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

人権・文化の尊重

戦争は人権侵害になることを理解し、日本で戦争が起こっていない現状を当たり前と考えず、過去の戦争のもとにあるととらえ、尊重すること。

・達成が期待される SDGs

10 人や国の不平等をなくそう

16 平和と公正をすべてのひとに

4. 単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
戦争に関わる歴史を知り、平和の価値について多角的に理解しようとしている。	戦争について調べたことや、修学旅行を通して学習したことを基に平和について考え、相手に分かりやすく伝えるように工夫して表現しようとしている。	進んで話し合いに参加し、身近な平和のために自分にできることを考えようとしている。

5. 単元の指導計画（全 10 時間）

次	学習活動	指導上の留意点	評価
一 ①	◎動画「もし「桃太郎」(ももたろう)のしゅじんこうが「オニ」だったら」を視聴する。 ・動画の感想を伝え合う。(全体) ・現在の戦争や紛争の写真から、動画と戦争の関係を考える。(全体)	・これまでもっていた「桃太郎」のイメージと比較させるなどして、視点によって物事の見え方が変わるということに気づかせる。	

二 ⑥	◎「戦争をなくすためにはどうすればよいか。」を考える。 ・グループで合意形成し、一つの具体的な方法と理由を考える。(グループ) ・戦争が起こる原因についての調べ学習を行う。(グループ) ・他グループとのサミットに向けて意見を整理し、グループ全員が発表できるように準備する。 (個人) (グループ) ◎サミットを行う。 ・自分以外のメンバーが他グループになるようにグループを組みなおし、意見交換を行う。(グループ) ・他グループの考えた方法とその理由を聞き、ワークシートに記入する。 (個人) (グループ) ・ワークシートで相互評価を行い、サミットを振り返る。(個人) (グループ)	・具体的な方法を考えるのが難しい時には、戦争が起こる原因から、「そうならないためにはどうしたらよいか。」ということを考えさせる。 ・順番に意見交換ができるように話し合いを促す。 ・ワークシートには自分が分かりやすく工夫して伝えられたかを評価する自己評価の欄と、聞いた方法と理由が分かりやすかったかを評価する他己評価の欄を設ける。	<u>ノート</u> 思・判・表 <u>観察・ワークシート</u> 思・判・表 <u>観察</u> 主体的に学習に取り組む態度
三 ③	◎自分にとって平和とは何かを考える。 ◎身近な平和の実現について考える。 ・これまでの学習で考えたことから自分の生活を見つめなおす。(全体) ・身近な平和の実現のために自分にできることを考える。(全体) ・考えた具体的な行動を付箋に記入する。(個人) ・付箋を集めて張り合わせ、平和学習のまとめとして教室に掲示する。 (全体)	・「戦争がなければ平和ということか。」を考えさせ、身近な平和に目を向けさせる。 ・考えるのが難しい場合は、戦争をなくす方法として考えたことを応用するとよいことを伝える。	<u>観察・付箋</u> 知識・技能